

令和5年1月30日(月)

【研修内容】

○家庭科授業研究（授業者：藤井志保）

1・2校時 6年生 私たちの食生活「買い物名人への第一歩」

【研修の目的】

○教科構想に基づき、＜対話＞を重視した授業開発を行い、その指導方法を検討する。

○中学校教員による、小学校への乗り入れ授業を実施し、小中5か年間の家庭科カリキュラムを子どもの発達段階に応じて検討する。

【題材計画】

小学校の食生活の学習「献立を工夫して」へつなげるはじめての1時間として位置づけた。

第1次 中学校教師による授業

加工食品の表示について考える(買い物名人への第1歩)・・・1時間(本時)

第2次 小学校の学習「献立を工夫して」……………4時間

第3次 家族のための献立を考え実行しよう……………各家庭で実施

【本時の目標】

○表示を予測する活動を通して、食品表示への理解を深める。(消費者としての態度の育成)

○中学校の学習内容や、生活の課題を解決する学習の道筋を知り、中学校での家庭科の学習への見通しを持つと共に、自ら学ぼうとする態度を育成する。

【授業の実際】

加工食品の表示内容を、推測する活動を通じて、資質・能力を育むことを目指した。まず、実物を提示し、表示の意味について、疑問を持ち、推測させた。子どもたちは、興味を持って考えようとしていた。そして、個人思考の時間と、仲間と＜対話＞する時間をとり、双方向のコミュニケーションを意識する働きかけを行った。加工食品の表示に関して、中学校の内容を先取りで提示し、食品の選択と購入に関する知識も新しく学ぶことができた。

